

今回のASSETSでは、日本の言う国の指導者たちの「基本的人権を感覚の無さ」を示した新聞記事を貼り付けます。尚、このASSETSをつくっている今日の日付は10月17日です。しかし、ここ3月のASSETSの資料が大量に蓄積していますので（申し訳ありません）過去の資料の分と新しい資料の分を、並行して載せます。年末までには今年分が取まると思っています（笑）。

「末端に責任押しつけ」

スリランカ女性死亡 遺族ら追及継続

名古川出入国管理官が、スリランカ女性死亡事件の責任を末端に押しつけたと、遺族ら追及継続。名古川出入国管理官は、スリランカ女性死亡事件の責任を末端に押しつけたと、遺族ら追及継続。名古川出入国管理官は、スリランカ女性死亡事件の責任を末端に押しつけたと、遺族ら追及継続。

交番襲撃 懲役12年

限定的責任能力認定 大阪地裁判決

交番襲撃事件で、被告人が限定的責任能力を認められ、懲役12年の判決を受けた。大阪地裁は、被告人が襲撃行為を行った際に、限定的責任能力を認め、懲役12年の判決を下した。

スリランカからきていたウシュマさんが、外国から来日した人々を管理する事務所で、病気を訴える彼女を無視して、死なせてしまったという記事です。入獄管理事務所そしてそれを管理する法務省が如何に否人道的で無責任であるかを世界中に知らせてしまった忌むべき事件の記事です。外国から日本に来ている人々への日本政府の対応のひどさは以前から目を覆いたくなることばかりで、雑誌「世界」の2020年の秋の記事での特集がありますので読んでみてください。もちろん理由は「政府にお金がない」ということなのですが、しかしオリンピックはできるのですから、そのような理屈は通用しないことは誰にでもわかるはずで。

そもそも日本は「少子化」の国です。ですから外国からの人々を多く受け入れて、日本で働いてもらって日本の産業を発展させ、そして税金も納めてもらうことによってしか日本の繁栄は望めないのです。つまりあなた達の将来の豊かさは、外国から日本へ来る人々を大切に受け入れない限り不可能なのです。それにも関わらず多くの日本人が「島国根性」を丸出しにした閉鎖的な対応をし、古臭い人間ばかりの自民党政府は「外国の人たちが日本に来ないように」するだけではなく、現実には日本にいる外国の人々への過酷なまでの対応をしているのです。今回の悲劇があったにもかかわらず、責任は現場の職員に押しつけ（左）にして、自分たちは責任を免れようとするだけではなく、自民党と法務省はもっとひどい改正法案を可決しようとしているのです。（左下）（雑誌「世界」昨年の11月号参照：尚、9月現在は中止することになっています。）なんとまあ先見のしない政治家や官僚たちで、あきれ果てます。

加えて森が日本とスリランカとの特別な関係を教えておきます。戦後アメリカ等は日本に対して「戦後賠償」を求めようとしてきました。しかし同じ仏教国であるスリランカの指導者ジャヤ・ワルダナさんが「日本人は仏教徒が多く、慈悲深い国民が多いので、今回の太平洋戦争は極悪非道で無知な軍国主義者が起こした戦争であるから、戦後の賠償金の支払いは免除してほしい」と強い主張をされたから、日本は戦後賠償しなくてもよくなったという経緯もあるのです。その恩人のスリランカから来た人に対するこのような行為は、まさしく恥づべき愚かな行為であると言えるでしょう。彼の名前を知っておけば、スリランカの首都の名前であるスリ・ジャヤワルダナ・プラコッテは簡単に覚えられるでしょう。現在、彼女の妹さんは、日本政府の無責任さそして非道さと戦う決意です。中学3年生の「公民」で学ぶ「国家賠償請求権」を行使して、日本国政府を訴えておられます。ウシュマさん家族を応援してください。そのことが日本の未来を救うことになるのです。

改正法再提案に意欲

法務省 収容者減少狙い

ウシュマさんの問題をめぐって、入籍改正法の国会審議が再開された。法務省は収容者の減少を狙って、改正法を再提案する意欲を示している。法務省は収容者の減少を狙って、改正法を再提案する意欲を示している。

年	人数
2014	1000
2015	1100
2016	1200
2017	1300
2018	1400
2019	1300
2020	1200

※出入国在留管理庁調べ、いずれも12月末現在

人権意識の欠如露呈

診療拒否現場で判断

スリランカ女性死亡

CU グループ

入籍施設で収容されたスリランカ女性死亡事件。診療拒否の現場で判断が下された。CUグループは、この事件をめぐって、人権意識の欠如を指摘している。CUグループは、この事件をめぐって、人権意識の欠如を指摘している。

白鳳 見苦しい振る舞い

一刀両断

芝山山康

五輪開催のため、通常の相撲見物とは異なる。白鳳の振る舞いは、見苦しいと批判されている。芝山山康は、白鳳の振る舞いを一刀両断に批判している。芝山山康は、白鳳の振る舞いを一刀両断に批判している。

総人口最大の48万人減

外国人7年ぶりマイナス

総人口最大の48万人減。外国人7年ぶりマイナス。日本の人口は、外国人の減少により、過去最大の減少幅を記録した。外国人の数は、7年ぶりに減少した。

年	日本人	外国人	合計
2013	125,000,000	1,000,000	126,000,000
2014	124,500,000	1,100,000	125,600,000
2015	124,000,000	1,200,000	125,200,000
2016	123,500,000	1,300,000	124,800,000
2017	123,000,000	1,400,000	124,400,000
2018	122,500,000	1,500,000	124,000,000
2019	122,000,000	1,600,000	123,600,000
2020	121,500,000	1,700,000	123,200,000

【右上】相撲の世界で最古の地位である横綱の「白鳳」関に対する批判はやみません。礼儀作法をわきまえない、面癖が悪すぎてヤクザみたいである、特に相撲を張り手で殴ったり、ひじ打ちみたいなレスリングと区別できないような相撲をし続けて、相撲を下品な国技にしてしまったなどが多く上げられています。森も「立ち合い」があまりにも姑息で、横綱なのに常に自分の都合が良いタイミングと都合がよい位置でしか立たないという点でずっと以前から白鳳のずるい相撲は見ないことにしていました。たとえ彼が何度優勝しようとも、貴乃花や北の湖や大鵬などの大横綱の足元にも及ばない、見苦しい相撲取りであるという評価は、たとえモンゴル化R来て苦勞をしたということがあったとしても、決して変わることはないでしょう。上は気が優しく気が弱い横綱と呼ばれた「大乃国」さん（笑）の記事ですが、新宮でもよく見ることができそうですので声をかけてみませんか？尚、10月現在、白鳳は引退して「間垣」親方を名乗っています。

